

令和5年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

広南中学校校区 校番2

呉市立広南小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標実現のため、地域の人材・教材の活用、そして、異学年での交流活動を通して、協働的な教育活動を創造している。 ・小中一貫校として、9年間を通して児童生徒の育成を目指しているのがよく理解できた。 ・早寝の目標時間設定は、家庭環境も考えて柔軟に考えてみるのはいかがでしょうか。
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「目指す姿」を実現するための方策として、課題意識をもって取り組む場、異学年交流の場を設定したり、次時に生きる「振り返り」を充実させている。 ・予習や授業づくり、「振り返り」などの結果分析を生かして、授業や生活の改善を図っている。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すレベルを児童に提示することにより、自分の目標を明確にして取り組めるようになっている。 ・場と機会を大切にした取組が、授業や生活の中で結果や意識の向上として現れている。課題の分析が改善策に繋がっている。 ・小中学校が組織として取り組んでいる様子が見えかけた。
今後の改善策(案)の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの項目について、さらなる改善策を具体的に考えている。 ・防災については、日頃からの意識・訓練で、さまざまな場面で対処できるような取組にしてほしい。 ・「早寝」や「メディアコントロール」については、家庭の協力はしっかり仰ぎ、子どもたち本人が睡眠と生活リズムに対する自覚(必要性)を高める取組を追究してほしい。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・1～9年生のどの授業も充実していて、子どもたちが集中できていた。5・6年生の体育の合同授業で、5年生をリードする6年生の姿、6年生にあこがれる5年生の姿を見ることができた。学年を超えての取組で育つ場面・素材が広南学園にはたくさんある。 ・小規模校の良さで、先生と子どもの距離が近く、目が行き届く。 ・現在の学校評価制度の方法の下で「数値」の上下に一喜一憂し過ぎないで、自信を持って前進していただきたい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度達成できた項目はさらなる向上を目指し取組を継続し、達成度の低い項目は改善策をより具体的な取組として実践していく。特に、「早寝」「メディアコントロール」については、数値が伸び悩んでいる。児童の実態に合った目標値や方策を考え、取組を進めたい。 ・取組の一つ一つを特別なこととしてだけでなく、日頃の授業や活動の中で意識してできるようにする。 ・地域、PTA、保護者への感謝の気持ちを表し、実態に応じた連携・交流・協力を継続していく。
--------------------	---